別紙（R2版）

ＩＣＴ活用計画書（土工）

（工事名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

会社名：

　当該工事において活用する技術について、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。

　また、建設生産プロセスの各段階において、ICT施工技術を活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 建設生産プロセスの段階 | 作業内容 | 採用する技術番号 | 技術番号・技術名 |
| □ | ①３次元起工測量 |  |  |  | １空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量２地上型レーザースキャナーを用いた起工測量３トータルステーション等光波方式を用いた起工測量４トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量５ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた起工測量６無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量７地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量８その他の３次元計測技術を用いた起工測量 |
| □ | ②３次元設計データ作成 |  |  |  | ※３次元出来形管理や位置出し、丁張り設置等に用いる３次元設計データの作成であり、ＩＣＴ建設機械にのみ用いる３次元設計データは含まない。 |
| □ | ③ＩＣＴ建設機械による施工 | □ | 堀削工 |  | １　３次元マシンコントロール（ブルドーザ）技術２　３次元マシンコントロール（バックホウ）技術３　３次元マシンガイダンス（ブルドーザ）技術４　３次元マシンガイダンス（バックホウ）技術 |
| □ | 盛土工 |  |
| □ | 路体盛土工 |  |
| □ | 路床盛土工 |  |
| □ | 法面整形工 |  |
| □ | ④３次元出来形管理等の施工管理 | □ | 出来形 |  | １空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理２地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理３トータルステーション等光波方式を用いた出来形管理４トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理５ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた出来形管理６無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理７地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理８施工履歴データを用いた出来形管理（河床掘削）９その他の３次元計測技術を用いた出来形管理 |
| □ | 品質 |  | １０　ＴＳ・ＧＮＳＳによる締固め回数管理技術（土エ） |
| □ | ⑤３次元データの納品 |  |  |  |  |

注１）ＩＣＴ活用工事(土工)(島根県版)の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注２）基本的には①～⑤の全ての段階においてＩＣＴ施工技術を活用するものとするが、施工者希望型では、ＩＣＴ施工技術の一部活用も可とする。「ＩＣＴ施工技術の一部活用」とは、②③④のいずれかを必須とする。

注３）平面図、代表断面図、縦断図等に対象範囲概略を図示し、添付すること。

別紙（R2版）

ＩＣＴ活用計画書（舗装工）

（工事名：　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

会社名：

　当該工事において活用する技術について、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。

　また、建設生産プロセスの各段階において、ICT施工技術を活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 建設生産プロセスの段階 | 作業内容 | 採用する技術番号 | 技術番号・技術名 |
| □ | ①３次元起工測量 |  |  |  | １地上型レーザースキャナーを用いた起工測量２トータルステーション等光波方式を用いた起工測量３トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量４地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量５その他の３次元計測技術を用いた起工測量 |
| □ | ②３次元設計データ作成 |  |  |  | ※３次元出来形管理や位置出し、丁張り設置等に用いる３次元設計データの作成であり、ＩＣＴ建設機械にのみ用いる３次元設計データは含まない。 |
| □ | ③ＩＣＴ建設機械による施工 | □ | 下層路盤工 |  | １　３次元マシンコントロール（ブルドーザ）技術２　３次元マシンコントロール（モーターグレーダ）技術 |
| □ | 上層路盤工 |  |
| □ | ④３次元出来形管理等の施工管理 |  |  |  | １地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理２トータルステーション等光波方式を用いた出来形管理３トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理４地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理５その他の３次元計測技術を用いた出来形管理 |
| □ | ⑤３次元データの納品 |  |  |  |  |

注１）ＩＣＴ活用工事(舗装工)(島根県版)の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注２）基本的には①～⑤の全ての段階においてＩＣＴ施工技術を活用するものとするが、ＩＣＴ施工技術の一部活用も可とする。「ＩＣＴ施工技術の一部活用」とは、②③④のいずれかを必須とする。

注３）平面図、代表断面図、縦断図等に対象範囲概略を図示し、添付すること。

別紙（R2版）

ＩＣＴ活用計画書（法面工）

（工事名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

会社名：

　当該工事において活用する技術について、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。

　また、建設生産プロセスの各段階において、ICT施工技術を活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 建設生産プロセスの段階 | 作業内容 | 採用する技術番号 | 技術番号・技術名 |
| □ | ①３次元起工測量 |  |  |  | １空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量２地上型レーザースキャナーを用いた起工測量３トータルステーション等光波方式を用いた起工測量４トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量５ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた起工測量６無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量７地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量８その他の３次元計測技術を用いた起工測量 |
|  | ②３次元設計データ作成 |  |  |  | 該当なし |
|  | ③ＩＣＴ建設機械による施工 |  |  |  | 該当なし |
| □ | ④３次元出来形管理等の施工管理 |  |  |  | １空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理２地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理３トータルステーション等光波方式を用いた出来形管理４トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理５ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた出来形管理６無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理７地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理８その他の３次元計測技術を用いた出来形管理 |
| □ | ⑤３次元データの納品 |  |  |  |  |

注１）ＩＣＴ活用工事(法面工)(島根県版)の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注２）基本的には①④⑤の全ての段階においてＩＣＴ施工技術を活用するものとするが、ＩＣＴ施工技術の一部活用も可とする。「ＩＣＴ施工技術の一部活用」とは、①④のいずれかを必須とする。

注３）平面図、代表断面図、縦断図等に対象範囲概略を図示し、添付すること。

別紙（R2版）

ＩＣＴ活用計画書（舗装工（修繕工））

（工事名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

会社名：

　当該工事において活用する技術について、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。

　また、建設生産プロセスの各段階において、ICT施工技術を活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 建設生産プロセスの段階 | 作業内容 | 採用する技術番号 | 技術番号・技術名 |
| □ | ①３次元起工測量 |  |  |  | １地上型レーザースキャナーを用いた起工測量２トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量３地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量４その他の３次元計測技術を用いた起工測量 |
| □ | ②３次元設計データ作成 |  |  |  | ※３次元出来形管理や位置出し、丁張り設置等に用いる３次元設計データの作成であり、ＩＣＴ建設機械にのみ用いる３次元設計データは含まない。 |
| □ | ③ＩＣＴ建設機械による施工 | □ | 路面切削工 |  | ＩＣＴ路面切削機 |
| □ | ④３次元出来形管理等の施工管理 |  |  |  | １地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理２トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理３地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理４施工履歴データを用いた出来形管理５その他の３次元計測技術を用いた出来形管理 |
| □ | ⑤３次元データの納品 |  |  |  |  |

注１）ＩＣＴ活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注２）基本的には①～⑤の全ての段階においてＩＣＴ施工技術を活用するものとするが、ＩＣＴ施工技術の一部活用も可とする。「ＩＣＴ施工技術の一部活用」とは、①②③④のいずれかを必須とする。

注３）平面図、代表断面図、縦断図等に対象範囲概略を図示し、添付すること。